

2019年度 業績の概要

2020年5月28日

日本生命保険相互会社
Nippon Life Insurance Company

日本生命グループにおける 新型コロナウイルス感染症に関連するこれまでの取り組み

<ご契約に対する特別取り扱い・契約貸付（新規貸付）の利息免除について>

- 保険料の払い込みに関する期間の延長
- 保険金・給付金・契約貸付金の簡易迅速なお支払い
- 保険契約の更新手続きの遡及対応
- 新規の契約貸付の利息免除

<「新型コロナウイルス感染症」に罹患されたお客様への保険金・給付金のお支払いについて>

- 医療機関の事情などにより、自宅またはその他病院などと同等とみなされる施設で治療を受けられる場合も、その治療期間に関する医師の証明書などをご提出いただくことで、入院給付金のお支払いの対象
- 災害死亡保険金等のお支払いについて、「新型コロナウイルス感染症」を直接の原因としてお亡くなりになった場合などにも、「災害割増特約」「（新）傷害特約」等のお支払いの対象

<医療機関等への支援について>

- 医療関係機関に1億円の寄付
- フェイスシールド1万個を医療現場等へ無償提供

<資産運用での貢献について>

- 国際金融公社が発行するソーシャルボンドに2億豪ドル（約131億円）を投資

目次

1 グループ概況

2 国内生命保険事業

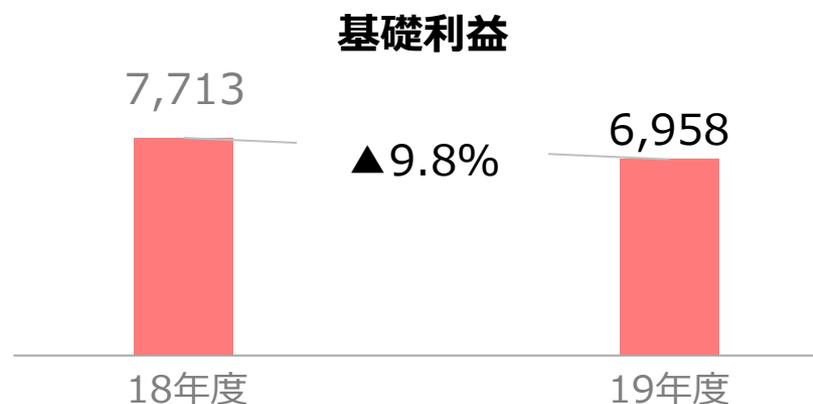
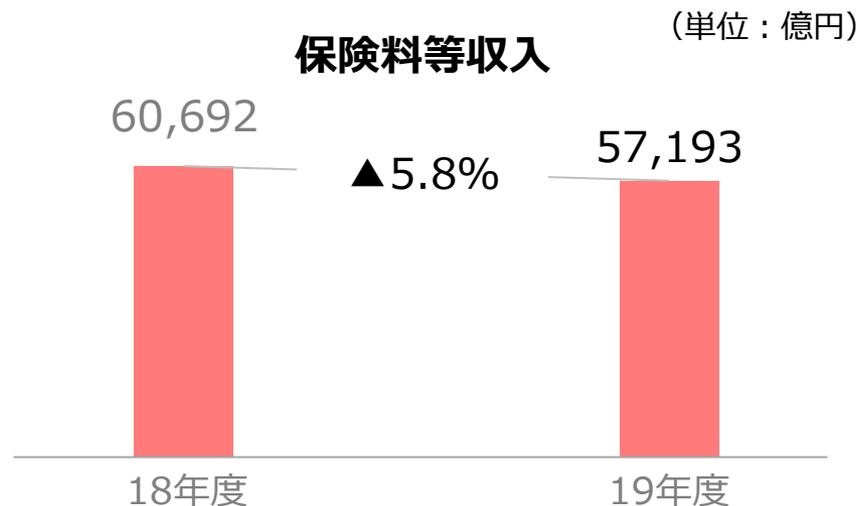
3 業績見通し

4 数量目標の状況
「全・進-next stage-」

【参考】グループ各社の概況

- 2019年度決算の連結業績は、前年度から減収・減益。
- 保険料等収入は、外貨建保険商品の販売減少を主因に、減収。
- 基礎利益は、保険料率改定の影響等により減益。
- MLC Limited（以下MLC）の収支悪化に伴う企業価値の低下を反映し、のれんの減損損失408億円を計上。

〔単体決算上では関係会社株式評価損683億円を計上。〕

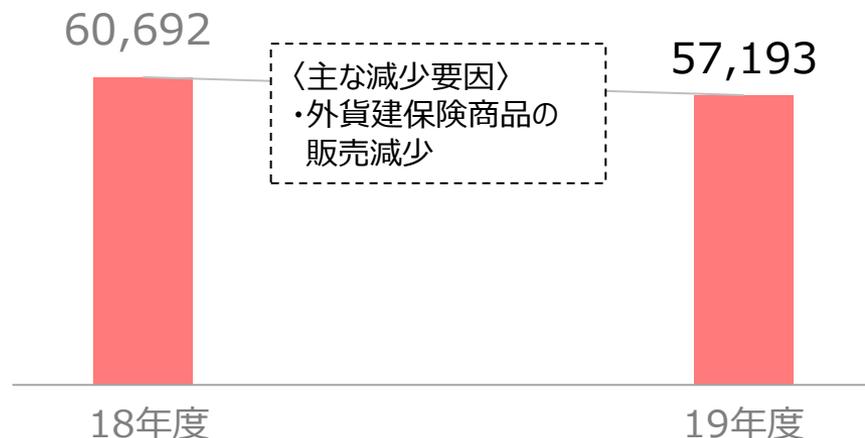


※ はなさく生命を2019年度第1四半期から連結反映（以降同様）

- 日本生命及び大樹生命では、海外金利の低下により外貨建保険商品の販売が減少したことや団体年金保険における新規引き受けの減少等により減収。
- 一方、ニッセイ・ウェルス生命では、生存保障重視タイプの商品や介護保障付商品の販売増加等により増収。
- MLCにおいては、為替変動（円高）の影響や団体保険の販売減少等により減収。

保険料等収入

(単位：億円)

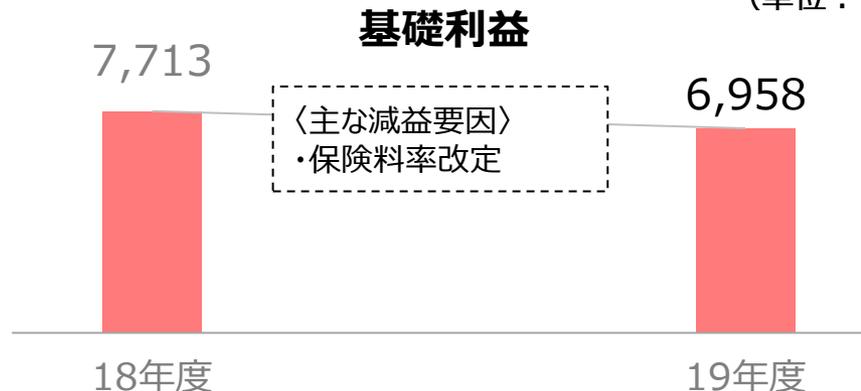


	2019年度	前年度比
保険料等収入	57,193	▲5.8%
日本生命	45,261	▲5.2%
大樹生命	6,677	▲13.0%
ニッセイ・ウェルス生命	3,090	+5.2%
MLC	1,752	▲9.5%

※ 合計値は連結保険料等収入（日本生命、大樹生命、ニッセイ・ウェルス生命、はなさく生命、MLC、米国日生を対象に算出）

- 保険料率改定の影響等により減益。
- 日本生命では、保険料率改定に加え、円高による外国債券利息等の減少により減益。
- 大樹生命では、保険料率改定の影響等により減益。
- MLCでは、所得補償保険の支払増加等により減益。
- はなさく生命は、開業に伴う初期投資により損失を計上。

(単位：億円)

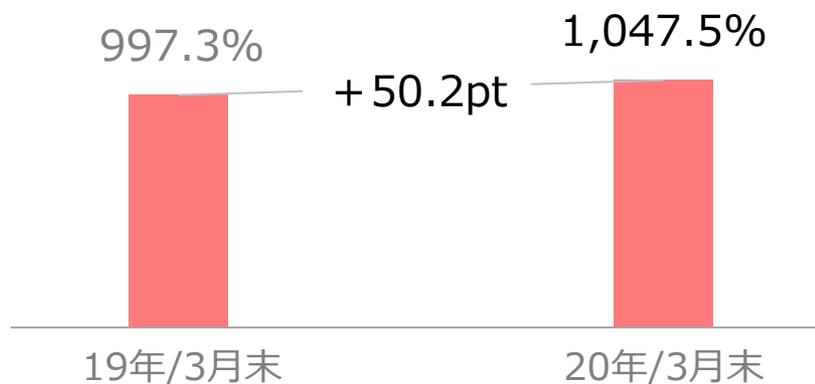


	2019年度	前年度比
基礎利益	6,958	▲9.8%
利差益	2,208	▲5.9%
保険関係損益	4,708	▲8.3%
日本生命	6,474	▲4.5%
大樹生命	286	▲34.7%
ニッセイ・ウェルス生命	258	▲1.6%
MLC	▲87	▲201.7%
はなさく生命	▲102	-

※ 合計値は日本生命、大樹生命、ニッセイ・ウェルス生命、はなさく生命の基礎利益、海外生命保険子会社・関連会社及び国内外のアセットマネジメント事業子会社・関連会社の税引前純利益に、持分比率、金利変動要因の除外、一部の内部取引調整等を行い算出

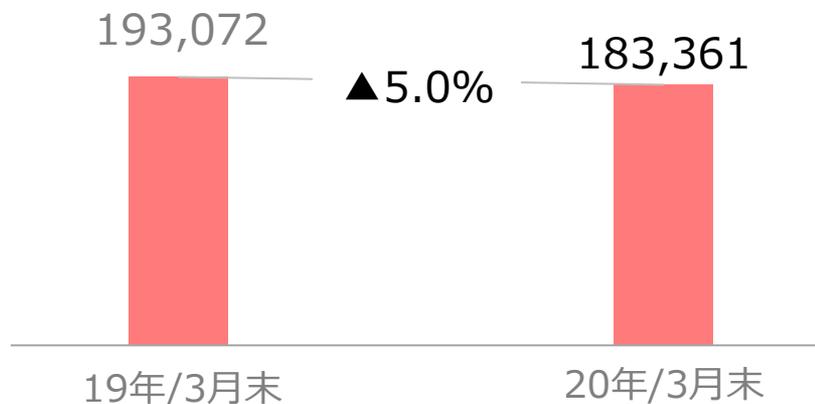
- ソルベンシー・マージン比率は、諸準備金等の積増や劣後ローン調達等を通じた自己資本の強化に伴い、前年度末対比で増加。
- 実質純資産は、自己資本を積増したものの、内外株価の下落による有価証券の含み益の減少により前年度末対比で減少。

ソルベンシー・マージン比率



実質純資産

(単位：億円)



損益計算書

- 経常利益及び当期純剰余は、前年度対比減少。

(単位：億円)

	2019年度	前年度比
経常収益	80,506	▲2.1%
保険料等収入	57,193	▲5.8%
資産運用収益	20,074	+9.0%
経常費用	77,693	▲0.4%
保険金等支払金	45,610	▲0.8%
資産運用費用	6,990	+88.0%
事業費	8,164	▲1.1%
経常利益	2,813	▲34.3%
(基礎利益)	6,958	▲9.8%
特別損益	▲724	▲27.9%
減損損失※	450	+1,836.0%
当期純剰余(利益)	1,921	▲31.1%

貸借対照表

- 総資産・負債ともに、前年度対比増加。
- 純資産は、前年度対比減少。

(単位：億円)

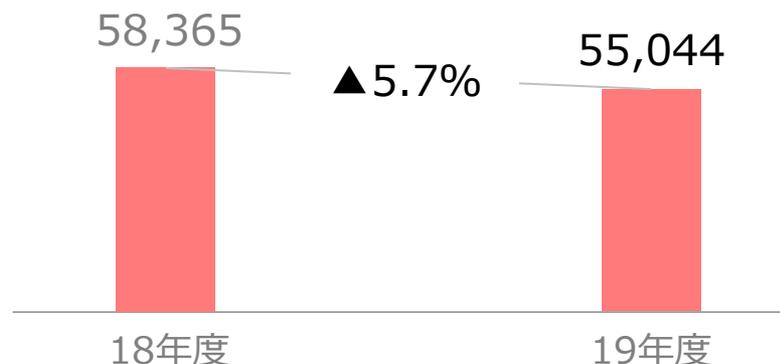
	2020年 3月末	前年度末比
総資産	800,811	+1.6%
うち有価証券	650,840	+1.0%
うち貸付金	84,366	▲0.9%
うち有形固定資産	19,135	+0.3%
負債	739,239	+2.9%
うち保険契約準備金	667,656	+2.0%
うち責任準備金	654,061	+2.0%
うち価格変動準備金	15,316	+4.9%
純資産	61,572	▲11.8%

※ MLCの業績悪化に伴うのれんの減損損失408億円を含む

- 国内における保険料等収入は減収。
- 営業職員等チャンネルは、海外金利の低下による大樹生命での一時払外貨建養老保険の販売減少を主因に減収。
- 銀行窓販チャンネルは、円建保険の販売は好調だったものの、外貨建保険の販売減少により、減収。
- 団体保険・団体年金保険は、保険料率改定や新規引き受けの減少により、減収。

保険料等収入（国内計）

（単位：億円）



	2019年度	前年度比
保険料等収入（国内計）	55,044	▲5.7%
うち個人保険・個人年金保険	39,151	▲7.7%
営業職員等チャンネル	32,568	▲6.2%
銀行窓販チャンネル	6,583	▲14.5%
うち団体保険	2,774	▲5.5%
うち団体年金保険	11,246	▲8.7%

※ 日本生命、大樹生命、ニッセイ・ウェルス生命、はなさく生命の合計値

- 国内の個人保険・個人年金保険の年換算保険料は法人向け商品や外貨建保険商品の販売減少により、前年度から減少。
保障額等は、大樹生命の外貨建保険商品の販売減少により前年度から減少。
- 日本生命での新商品「入院総合保険“NEW in 1”」(2019年4月発売)の好調な販売により、件数は前年度から増加。

(単位：億円、万件)

個人保険・個人年金保険	年換算保険料		件数		保障額等	
	2019年度	前年度比	2019年度	前年度比	2019年度	前年度比
国内計	4,072	▲20.8%	527	+1.7%	95,338	▲4.1%
営業職員等チャネル	2,516	▲22.2%	517	+2.6%	87,994	▲2.3%
銀行窓販チャネル	1,556	▲18.3%	10	▲29.3%	7,343	▲21.9%
日本生命	2,504	▲19.5%	499	+1.7%	84,445	+0.2%
大樹生命	332	▲37.6%	19	▲23.5%	8,062	▲28.9%
ニッセイ・ウェルス生命	1,197	▲19.9%	2	+4.6%	2,733	▲28.7%

※ 国内計・チャネル別内訳は、日本生命、大樹生命、ニッセイ・ウェルス生命、はなさく生命の合計値

- 国内の個人保険・個人年金保険の保有契約は、年換算保険料、保障額等は減少、件数は増加。
- 団体保険・団体年金保険は増加。

(単位：億円、万件)

個人保険・個人年金保険	年換算保険料		件数		保障額等	
	2020年 3月末	前年度末比	2020年 3月末	前年度末比	2020年 3月末	前年度末比
国内計	45,245	▲0.2%	3,618	+4.0%	1,791,205	▲1.6%
日本生命	37,618	+0.4%	3,320	+4.2%	1,573,193	▲1.2%
大樹生命	5,142	▲1.6%	259	▲0.2%	186,752	▲4.7%
ニッセイ・ウェルス生命	2,445	▲7.5%	32	+3.4%	31,162	▲2.2%

団体保険・団体年金保険	団体保険 (保障額等)		団体年金保険 (受託資産等)	
	2020年 3月末	前年度末比	2020年 3月末	前年度末比
国内計	1,100,027	+0.3%	168,638	+0.5%
日本生命	978,894	+0.8%	133,871	+1.6%
大樹生命	121,133	▲3.8%	7,827	▲3.3%

- ※ 個人保険・個人年金保険の国内計は、日本生命、大樹生命、ニッセイ・ウェルス生命、はなさく生命の合計値
- ※ 団体保険・団体年金保険の国内計は、日本生命、大樹生命、ニッセイ・ウェルス生命の合計値
- ※ 団体年金保険の国内計には、ニッセイアセットマネジメントの投資顧問残高(22,589億円)、確定拠出年金の投資信託(日本生命販社分4,336億円)を含む

- 日本生命及び大樹生命における個人保険・個人年金保険について、昨年度に引き続きご契約者への配当を実施する方針。

ご契約者配当の方針 (個人保険・個人年金保険)

日本生命

- 個人保険・個人年金保険について、ご契約者配当を実施。危険差益配当は**増配**、利差益配当は**減配**する方針
 - 約1,000万件のご契約を対象にご契約者配当を実施

大樹生命

- 個人保険・個人年金保険について、**昨年度に引き続きご契約者配当を実施**する方針（水準は据え置き）
 - 約4万件のご契約を対象にご契約者配当を実施

- 2020年度は日本生命グループ計で、販売計画は未定とし、保険料等収入は前年度から減収を見込む。
- 保険料等収入は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う営業職員チャネル等の販売自粛の影響により、減収を見込む。
- なお、基礎利益は、現時点での見通しは不透明であるものの、上記の保険料等収入の減収等により、厳しい状況となる見通し。

(単位：億円、百万豪ドル)

	保険料等収入		基礎利益	
	2019年度	2020年度 見込み	2019年度	2020年度 見込み
グループ計	57,193	減少	6,958	－
日本生命	45,261	減少	6,474	－
大樹生命	6,677	減少	286	－
ニッセイ・ウェルス生命	3,090	減少	258	－
MLC	1,887	減少	▲ 114	－

- ※ 保険料等収入のグループ計は、連結保険料等収入（日本生命、大樹生命、ニッセイ・ウェルス生命、はなさく生命、MLC、米国日生を対象に算出）
- ※ 基礎利益のグループ計は、日本生命、大樹生命、ニッセイ・ウェルス生命、はなさく生命の基礎利益、海外生命保険子会社・関連会社及び国内外のアセットマネジメント事業子会社・関連会社の税引前純利益に、持分比率、金利変動要因の除外、一部の内部取引調整等を行い算出
- ※ MLCの収入保険料は手数料を除いた数値を記載

4 数量目標の状況 「全・進-next stage-」



- 「保有年換算保険料」、「お客様数」、「自己資本」の項目においては、いずれも順調な進捗状況。
- 「グループ事業純利益」は、一時的な要因もありマイナス118億円となった。

保有年換算保険料

4.5兆円
(20年度末)

4.52兆円
(19年度末)

お客様数

1,440万名
(20年度末)

1,448万名
(19年度末)

グループ事業純利益

700億円
(20年度)

▲118億円
(19年度末)

自己資本

6.5兆円
(20年度末)

6.68兆円
(19年度末)

- ※ 保有年換算保険料及びお客様数は、日本生命、大樹生命、ニッセイ・ウェルス生命、はなさく生命の合計値
- ※ グループ事業純利益は、大樹生命、ニッセイ・ウェルス生命、はなさく生命、海外生命保険・アセットマネジメント事業子会社等の当期純利益に、持分比率、一部費用の調整等を行い算出（日本生命は除く）
- ※ 自己資本は、日本生命単体数値

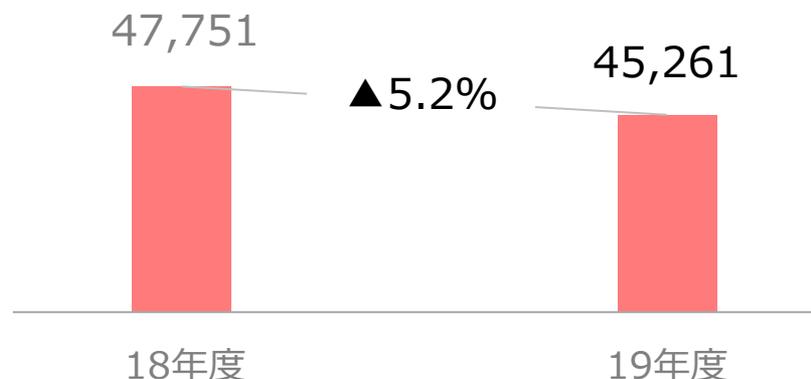
【参考】
グループ各社の概況等

【参考】日本生命（単体）：収支

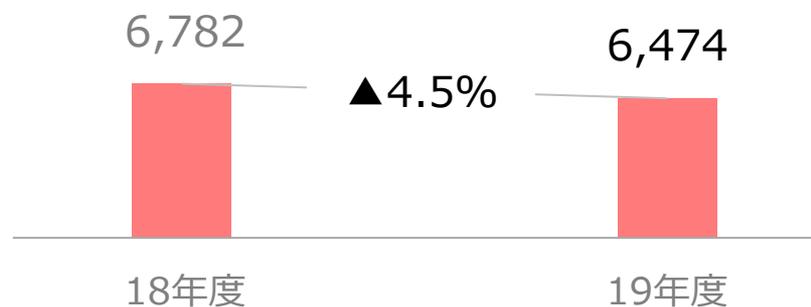
- 日本生命単体は前年度より減収・減益。
- 保険料等収入は、外貨建保険商品の販売減少と団体年金保険における新規引き受けの減少等により減収。
- 基礎利益は、保険料率改定による危険差益の減少に加え、円高によって外国証券の利息配当金が減少したことを主因として減益。

(単位：億円)

保険料等収入



基礎利益



	2019年度	前年同期比
基礎利益	6,474	▲4.5%
利差益	2,209	▲5.6%
費差益	282	+7.8%
危険差益	3,982	▲4.7%

資産運用収支（一般勘定）

（単位：億円）

- 資産運用収支は前年度より増加。
- 資産運用収益は、外国債券の入替に伴う有価証券売却益の増加により増加。
- 資産運用費用は、国内株式の減損を主因とした有価証券評価損の増加により増加。

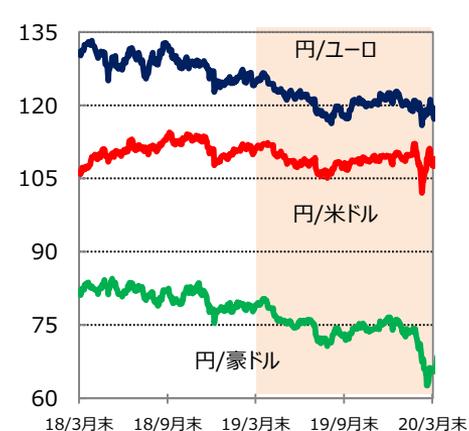
	2019年度	前年同期差
資産運用収益	17,768	+1,441
うち利息及び配当金等収入	14,261	▲14
うち有価証券売却益	3,282	+1,332
資産運用費用	4,663	+1,212
うち有価証券売却損	487	▲900
うち有価証券評価損	2,023	+1,810
うち金融派生商品費用	839	▲91
資産運用収支	13,104	+228

マーケット状況

（単位：％）

（単位：円）

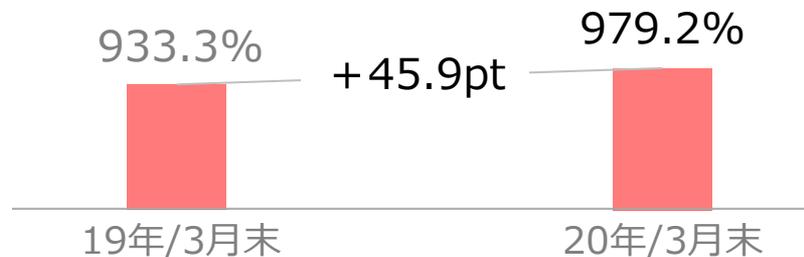
（単位：円）



【参考】日本生命（単体）：健全性

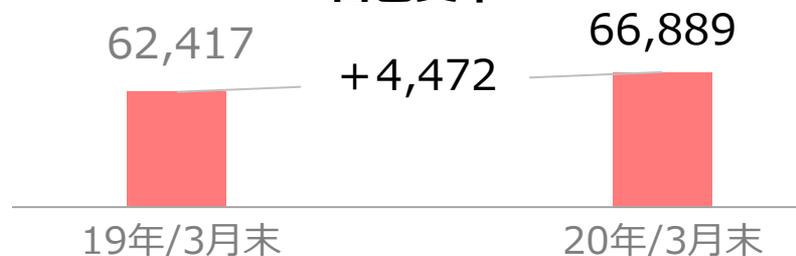
- 劣後ローン調達に加え、危険準備金・価格変動準備金の着実な積増等によって、自己資本が前年度末から増加したこと等によりソルベンシー・マージン比率は増加。
- 有価証券の含み益は、内外株価の下落を主因に前年度末から減少。

ソルベンシー・マージン比率



自己資本

(単位：億円)



有価証券 含み損益

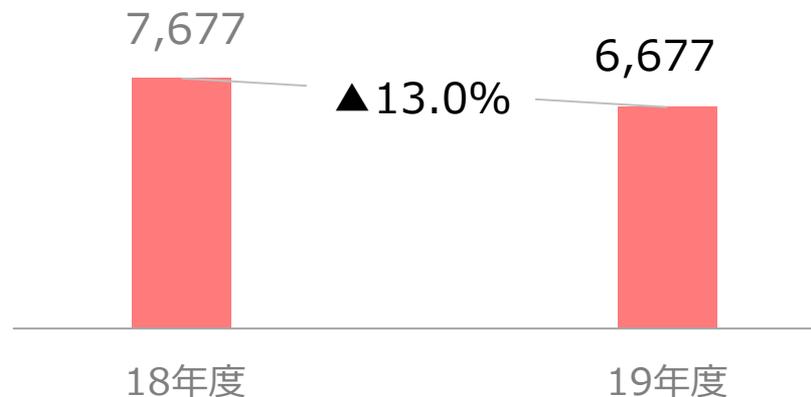
(単位：億円)

	2020年 3月末	前年度末差
時価のある有価証券	95,835	▲ 13,137
公社債	39,199	▲ 3,790
国内株式	31,780	▲ 9,996
外国証券	22,665	+1,150
その他	2,189	▲ 500

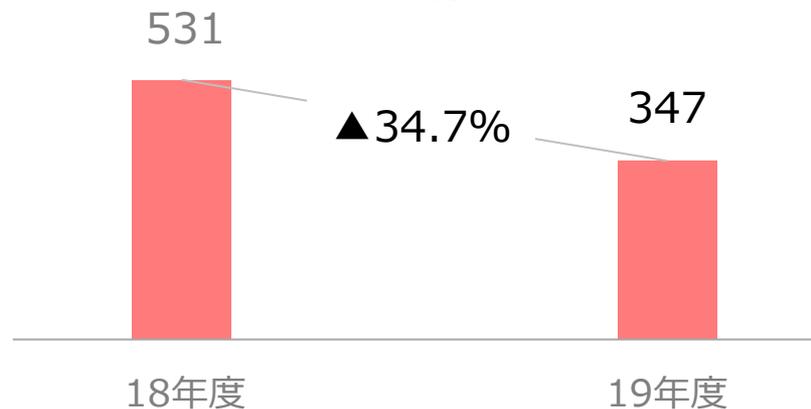
(単位：億円)

- 大樹生命は前年度より減収・減益。
- 保険料等収入は、海外金利の低下により一時払外貨建養老保険の販売が減少したことを主因に減収。
- 基礎利益は、保険料率改定の影響等により減益。

保険料等収入



基礎利益

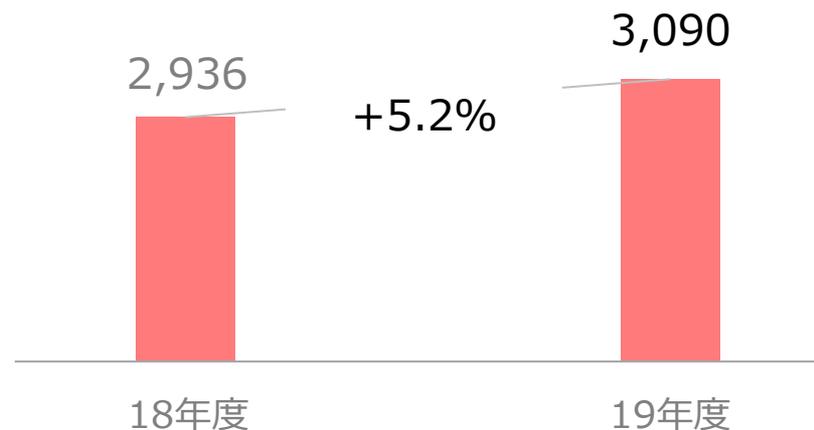


※ 単体の数値を記載

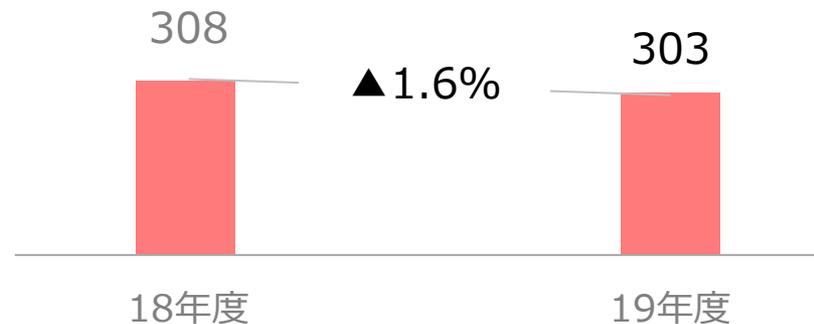
(単位：億円)

- ニッセイ・ウェルス生命は前年度より増収・減益。
- 保険料等収入は、生存保障重視タイプの商品や介護保障付商品等の一時払商品の好調な販売を主因に増収。
- 基礎利益は、株式等の配当の減少を主因に減益。

保険料等収入



基礎利益

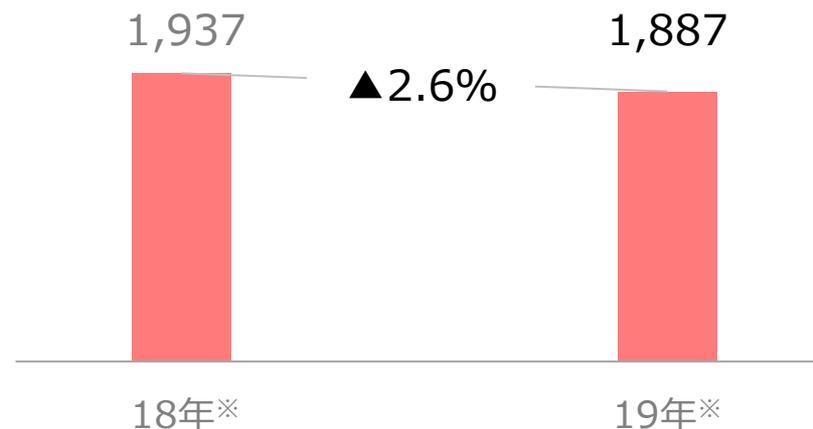


※ 単体の数値を記載

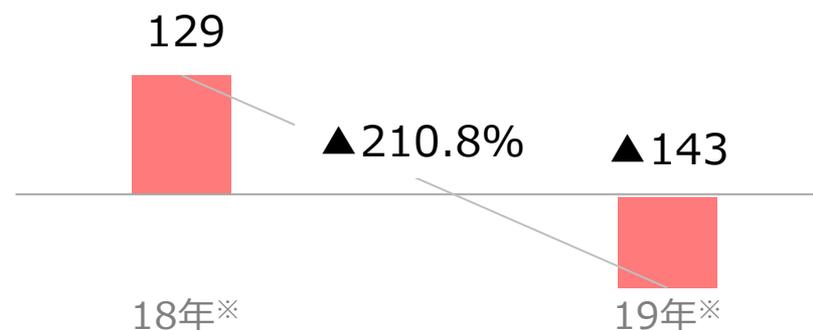
(単位：百万豪ドル)

- MLCは、前年度から減収・減益。
- 収入保険料は、個人保険の販売が増加した一方で、団体保険・銀行窓販が減少したことから減収。
- 基礎利益は、個人保険の所得補償保険の支払増加を主因に減益となり、143百万豪ドルの赤字。
- なお、上記業績悪化に伴う企業価値の低下により、日本生命グループの連結財務諸表上、MLCに係るのれんの減損（▲408億円）、日本生命の単体財務諸表上、関係会社株式評価損（▲683億円）を計上。

収入保険料



基礎利益



- ※ 単体の数値を記載
- ※ 年度決算では1-12月期を連結反映
- ※ 収入保険料は、手数料を除いた数値を記載
- ※ 基礎利益は、税引前利益から金利変動等の影響を除いた数値を記載